

# ドローンを活用した鳥獣被害対策について

市町・自治体・団体



丹波篠山市

課題解決事業者



株式会社skyer

## 取り組んだ課題



野生動物の捕獲や追払いにより、農家や狩猟者の負担を減らしたい。

## 解決してない理由は？



高齢化や農業や狩猟の担い手不足で、追払いや捕獲など鳥獣被害対策に取り組む農家、狩猟者が減少しているため。

## 求める解決策

ドローンを活用した「野生動物の生息状況調査」および「ニホンザルの追払い」の実施

鳥取発のドローン事業会社



## 実証概要

## ドローンによる野生動物の生息状況調査や追い払いが被害軽減に寄与するか

## 目的

- ・シカ・イノシシの生息状況把握の精度を検証
- ・ニホンザルに対するドローンの追い払い効果を、出没状況や反応から判断

## ターゲット

- ・野生動物による農作物被害を受けている農家
- ・有害鳥獣捕獲活動に携わる狩猟者

## 事業者のアセット

- ・産業用ドローン(拡声器・照射ライトを搭載)
- ・夜間飛行などの高難易度運用技術
- ・鳥獣の生息域モニタリングのノウハウ

## 市町のアセット

- ・農家や狩猟者との調整や事業周知
- ・ニホンザルの位置情報の把握
- ・野生動物による農作物被害状況把握

実証①

熱感知センサー搭載ドローンを活用した、野生動物の生息調査



実証②

ドローンを使った音や光等による、ニホンザルの追い払い



住民：そこの畑ね、(サルに)全部やられとる

定量  
結果

短時間かつ少人数で、  
広範囲の生息状況を確認できた。



調査時間： 2時間 → 20分へ短縮  
人数： 5名 → 2名へと削減  
範囲： 山すそ付近 → 山全体へと拡大

定性  
結果

シカやイノシシの行動を  
俯瞰的に観察可能になった。



- ・ 猟師の経験やスキルに依存せず、的確な捕獲計画が立案可能に。
- ・ 対象動物が不在の場合は実施しないなど、銃猟実施の可否判断が容易に。

定量  
結果

サルの滞在日数が大幅に減少



前年度同時期の滞在日数：11日 → 2日  
20頭の群れのうち、5頭の追い払いに成功

定性  
結果

サルの行動実態を正確に把握



- ・ ドローンや音に反応し、サルが逃げる様子を直接確認できた
- ・ 追い払い後、遠方へ移動していることを受信機等で確認できた

## その他 結果

事前周知を行った結果、  
住民の皆様からの反応は非常に良好



- ・日頃悩まされている獣害対策が目的であると理解され、非常に協力的な姿勢を得られた。
- ・ドローンに対する恐怖心・不安感は少なく、取り組み内容に対する興味や関心が高い

## ドローンを活用した有害鳥獣対策 実証実験を実施します

～地域の安全・安心と、農作物を守るために～



地域の皆さまへ：日頃より市の取組にご協力いただきありがとうございます。  
丹波篠山市では、イノシシ・シカ・サル等による被害軽減のため、  
将来の本格導入を見据えたドローンの実証実験（社会実験）を行います。

### 【目的】

  
農家の見回り  
負担を軽減！

  
新たな対策で  
被害を減らす！

### 【実験内容】

  
生息域調査：ドローンで  
上空からイノシシ・シカ  
の居場所を確認。  
  
サルの追払い：音や光で  
サルを山へ遠ざけます。  
（※危害は加えません）

### 【実施予定日】

2026年 1月13日（火）・14日（水）

※天候等により変更・中止となる場合があります。

### 【実施フィールド図】






【赤】生息域調査【青】サル追払い【H】ドローン離発着地

### 【詳細タイムスケジュール（予定）】

	12:00-15:00	サル追払い
13日(火)	16:30-18:00	調査
	22:00-23:30	深夜調査
	2:30-4:00	夜明け前調査
14日(水)	6:00-7:30	早朝調査
	11:00-15:00	サル追払い

### 【安全・安心への配慮】

-  航空法等の法令を遵守し、許可を得て実施します。
-  飛行ルート・時間帯、騒音・光に十分配慮します。
-  撮影映像は実証目的以外には使用しません。

### 【よくあるご質問（Q&A）】

- Q. 音はうるさくない？ 夜間は危なくない？  
A. 必要最小限の時間・高度で飛行し、騒音に配慮します。夜間は2名体制で安全を確認しながら運用します。
- Q. 家の上を勝手に撮影されない？  
A. 住宅地上空を無断で飛行しません。映像は適切に管理します。
- Q. 人やペットに影響は？  
A. 音や光による方法で、危害を与えるものではありません。

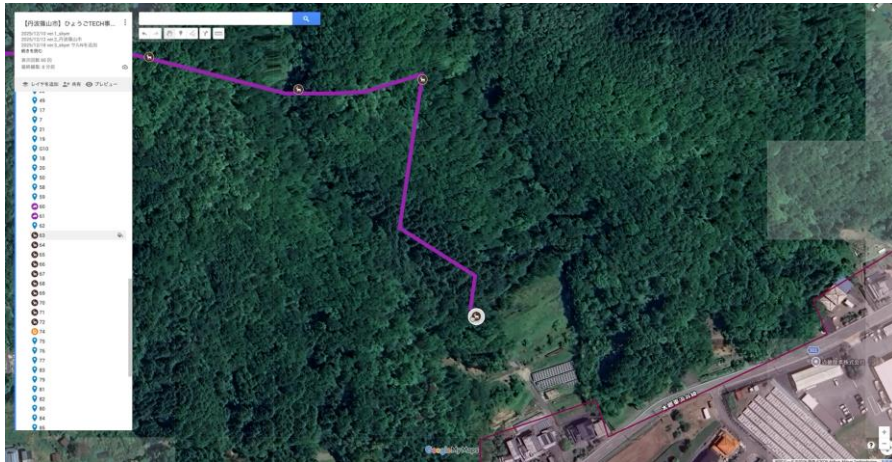
### お問い合わせ先

丹波篠山市役所 農部創造部森づくり課（担当：安井）  
電話：079-552-1117（平日 8:30～17:15）

ご不明な点やご不安がございましたら、お気軽にご連絡ください。

## 総括

ドローンを用いた生息状況調査および追い払いの有効性を確認。  
継続的な実施により、さらなる成果の向上が期待。



## 期待される効果

- ・ 農家および狩猟者の作業負担の大幅な軽減
- ・ データに基づく計画的かつ効率的な捕獲の実現
- ・ サルの里への出没頻度の低下

## 改善点

- ・ 生息状況調査における精度の向上 (獣種・寝屋の特定など)
- ・ 慣れさせないための、工夫した追い払い
- ・ ドローン出動実施頻度の増加 **(反復実施)**

## 今年度の結果



- ・シカやイノシシの生息状況を把握することができた
- ・ドローンを使ってニホンザルを追いかつことができた

次のアクション  
(2026年度)

実証継続

横展開予定



- ・生息状況調査結果に基づく、具体的な捕獲計画の策定
- ・音の種類を多様化するなど、サルの追い払い実証の継続と高度化
- ・サギ類など鳥類への追い払いの検証

## ゴールイメージ



- ・農作物被害が深刻な地域における、集中的な捕獲システムの構築
- ・「ドローン追い払い隊」を結成し、広域的な対策ネットワークを形成
- ・「鳥獣害対策DXプラットフォーム」の開発→次世代の農業支援へ

## テクノロジーを活用した「野生動物との共生」

- ・ドローンを活用し、野生動物の生態を正確に把握。最適な追い払い手法の確立。
- ・「駆除」ではなく、テクノロジーによる「棲み分け」を実現。

兵庫県から、人と自然が共生する  
「次世代の鳥獣被害対策モデル」を全国へ！

こんな人と話したい

- ・新しい鳥獣被害対策を探している自治体・JA・猟友会の方
- ・一緒に実証実験に取り組んでいただけるフィールド（地域・農家）
- ・ドローンのデータ解析（AI）やIoT連携で協業できる技術パートナー



# ドローンを使って野生動物と共生！ 安心して農業できる環境づくり！